

平成28年度人材育成支援無償「人材育成奨学計画」
E/N署名時の大使のスピーチ

2016年7月29日、タシケント市

尊敬するイクラモフ副首相閣下、ご列席の皆様

本日、人材育成支援無償「人材育成奨学計画」の交換公文2通（総額4.59億円、約430万米ドル）に署名する運びとなったことに心から、お喜び申し上げます。

ウズベキスタンにおける「人材育成奨学計画」は、「社会経済開発の政策立案に携わる優秀な若手行政官等の育成」及び「二国間関係の強化」を目的として、1999年に開始されました。我が国は本件プロジェクトにおいて、合計280名の留学生を日本の大学院に送り出してきました。

本年8月下旬には第17期生が日本に出発する予定です。現在、留学に向けた活発な事前研修が行われていると伺っています。

また、まもなく第18期生の募集も始まる見通しです。ウズベキスタン政府におかれましては、本プロジェクトが最大限有意義なものとなるよう、特に対象者の推薦や帰国後に当国で活躍するためのフォローアップにつき、引き続きご協力をお願いします。

当プロジェクトの修了生は、すでにウズベキスタンの様々な分野で活躍していると伺っています。また、カリモフ大統領やイクラモフ首相閣下を初め、ウズベク政府の閣僚なども、この事業の意義について言及され、本事業がウズベキスタンにおいて、大きな意味を有していることを実感しています。

今回、私にとりまして最後の署名式が、私が非常に重視してきた本プロジェクトの署名になったことは誠に感慨深いものがあります。本件プロジェクトが第1にウズベキスタンの社会・経済の発展に寄与すること、第2に、日・ウズベキスタンの友好関係を一層深め、両国国民の間のかけ橋となることを祈念して、私の挨拶といたします。

駐ウズベキスタン共和国日本国特命全権大使
加藤文彦